

【児童へのお話】

5月の連休が明け、校庭の木々の力強い緑がとても眼にまぶしい季節になりました。生活リズムを整え、時間を守ってテキパキと行動できるようにしていきましょう。

今日は、本当の『優』についてお話しします。

この「優」は、「優しい」の他に、「優れている」とも使われる漢字です。「紅組が優勝する」とか「とても優秀な人」のように使われて、他の人よりも強かったり、勉強ができた、特技があったりすることを意味しているように思えます。

でも実は、本当の意味は違います。この漢字をよく見てみると、左の「人」を除いた右側の部分は「憂う（うれう）」と読み、悲しんだり、思い悩んだりすることを意味しています。そこに「人」がくっついて、本当の意味は『悲しんだり悩んだりしている人に寄り添っている人』のこと、となります。

人より力が強くても、勉強ができて、特技をもっている、それは優れているとは言いません。本当に優れた人とは、『悲しんだり悩んだりしている人に寄り添える優しい人』だということです。

友だちとケンカしたりイヤなことを言ったりする人、自分のことしか考えない行動をする人は、優れているとも優しいともいえません。それよりも、人と仲良く楽しく笑顔でいるほうが、優しく優れた人といえますし、その人の人生はずばらしいものになります。一日ひとつ、友だちに優しく、人のためになることをして、皆さんの人生を豊かにしていきましょう。

今週土曜日は授業公開があり、おうちの方が皆さんの学習や生活の様子を見に来てくださいます。互いに優しい気持ちで穏やかに生活する、皆さんのステキな姿を見せてあげてくださいね。今日は、「優」の本当の意味についてお話ししました。

【本講話について】

今日は月1度全校児童が集まった朝礼のロング講話です。番町小の子どもたちが、人の気持ちを慮り、優しく、皆から好かれる人になれるよう、「優」の漢字の意味について話しました。

有名な探偵小説の主人公が『強くなければ生きていけない。優しくなければ生きている価値がない』という内容のセリフを言っています。その通りです。本当に優れた人ほど、人に優しくできるものだと思います。これは、本校のGrand Design 2022の「徳 思いやる子」の部分に当たります。道徳の「親切・思いやり」に関する価値項目の指導を軸として、学校の全ての教育活動を通し、本当の意味での優しい子を育てていきます。ぜひご家庭でも、本当の優しさとは何か、また、普段から優しくできることは何かなど、お子さんと話をしてみてください。